

## 第1回札幌市避難場所基本計画見直し検討委員会

日時：平成30年8月2日（木）10:00～11:30

場所：TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム7A

出席委員：植田委員	大江委員	大竹委員
岡崎委員	柏委員	柏木委員
川村委員	佐々木委員長	篠原委員
竹腰委員	玉井委員	筒井委員
根本委員	平田委員	宮本委員
安田委員	渡辺委員	

（計 17名）

- 次第：1 開会・あいさつ  
2 委員紹介  
3 避難場所基本計画の概要について  
4 熊本地震等における課題について  
5 計画の見直し項目について  
6 スケジュールについて

### 議事抄録

#### 1 開会・あいさつ

○札幌市危機管理対策室危機管理対策部 中出部長

皆様におかれましては、日頃より札幌市の防災行政につきまして、ご理解・ご協力を頂いております。この場を持ってお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、このたびは、お忙しい中、当委員会の委員にご就任をいただきまして、本日、第1回目の会合ということで、ご出席をいただいております。これにつきましても、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて近年、毎年のように大きい災害が続いております。今年度におきましても、6月中旬に大阪府北部を震源とする大きな地震、さらには7月に入り、西日本を中心に広い範囲で襲った豪雨の被害、こういったものが続いており、特に7月の西日本の豪雨につきましては、200名を超える方の尊い命が失われたということでございます。また現在も大変暑い中、多くの方が避難生活を余儀なくされている状況でございます。遠くからになりますけれども、1日でも早い復旧・復興を願わずにはいられないという気持ちでおります。

こういった自然災害が発生し、自宅等に生活できない状況におかれまして、札幌市としては市民の皆様を安全かつ迅速に避難・保護するため、「避難場所」をいち早く開設することになります。そういった避難場所につきまして、札幌市では、東日本大震災の状況・検証を踏まえ、

（平成）25年3月に「札幌市避難場所基本計画」を策定しております。それ以来この計画に基づき、避難場所に求められる機能、避難場所に市として備えるべき備蓄の物資、そういったものについて避難場所を中心とした環境整備に取り組んできたところでございます。

早いものでもう2年になりますけれども、（平成）28年4月、熊本を襲った大きな地震により、また新たに発災直後・初期に食糧が不足をするといった事態や、配慮を必要とする方への対応、さらにはペットを同行しての避難、車を利用しての避難、車中泊などが大きく取り上げ

られておりました。色々な形で課題が見えてきたということでございます。そういった状況を捉えて「札幌市避難場所基本計画」について、見直す必要があるということで、今回、この委員会の設置になったということでございます。

見直しの検討に当たりましては、今回の西日本の状況も踏まえ、注視しながら検討してまいりたいと考えてございます。

避難場所は、単に災害時に逃げ込む場所ということではございません。「命を守る場所」、さらには「命をつなぐ場所」ということでございます。また近年の状況をみますと、地震の災害に限らず、風水害においても災害の被害の規模が大規模化する状況が見えまして、長期間の避難をどうしても余儀なくされる状況となっております。そういう状況を踏まえまして、避難場所を開設した当初から避難場所の「質の向上」、より良い避難場所といった環境整備が急務となっております。

今回、皆様にご検討いただいて、見直しの検討を進める中で計画の更なるブラッシュアップ、内容の充実につなげてまいりたいという風に考えております。

最後になりますけれども、委員の皆様におかれましては、これまでのご経験、さらには知識といったものに基づきまして、それぞれの立場・観点から忌憚りの無いご意見をいただきますよう、お願いを申し上げます。

## 2 委員紹介

### ○事務局

委員をご紹介させていただきます。よろしければご紹介した後、簡単に自己紹介していただければと思います。

### ○上田委員

力不足ではございますが、頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### ○大江委員

私はPTA代表として今回参りました。一人でも多くの市民に新しくなった情報を届けていけるようにとの思いを込めて、今日は真剣に参加したいと思います。

### ○大竹委員

札幌国際プラザは、大きな災害の際には、多言語支援センターという役割を担うことになっております。多言語で外国人の方々の支援をすることになります。避難所が市内に開設された際には、そちらの方に巡回という形で職員などを派遣することも想定されております。避難所での外国人の方々の支援ということも考えておりますので、そういった外国人支援の視点からお話をいろいろさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

### ○岡崎委員

札幌市身体障害者福祉協会は毎年、札幌市で開催しております防災訓練、10区、それから総合防災訓練に、障がい当事者の参加を促し、また障がい者自身が防災にもっと知識を高めて、それから防災に関わる方々との出会いとか、そういったものを知っていただく、関心を持っていただく取り組みをしております。

今年ももう既に各区の防災の担当者と打ち合わせをしております、身体、知的、精神それぞれの当事者の方に防災訓練の参加をしていただく予定であります。最初の防災訓練は8月30日、防災の日9月1日、最終は9月4日の訓練を持ちまして、色々な障がいをお持ちの方々に参加を呼び掛けていきたいと思っております。

### ○柏委員

災害支援に関しましては阪神淡路大震災以降、何らかの形で社会福祉協議会で関わらせてい

ただいています。西日本の集中豪雨も、今週から東広島市、それから岡山市に災害ボランティアセンターの支援と緊急小口資金の担当ということで、職員を派遣させていただいております。

今日、お配りの資料の中に、避難場所整備の推移というのが書いてありますが、私の記憶では、地域防災計画の修正が平成 22 年にされていると思いますが、その前段で庁内の検討をしていた際、私は社協で災害ボランティアセンターの準備をしていた関係で、プロジェクトに入らせていただいた。そのご縁もあって今回仲間入りをさせていただきます。

○柏木委員

私は北星学園大学にある学生支援ネットというところから来ました。学生支援ネットは、東日本大震災をきっかけに発足した団体でそれ以降、夏休みと春休みに定期的に東北と、熊本地震以降は熊本、そして南富良野の豪雨災害でもボランティアを行っている団体です。

私たち 2 人が唯一の学生なんです、何の分野のプロでもないのですが、学生として学生目線で支援をしているからこそわかることもあると思うので、学生ならではの意見が出せたらいいなと思っています。

○川村委員

同じく北星学園大学 学生支援ネットから来ました。

熊本に 2 回、東北に 1 回現地に行って、仮設住宅に暮らしている人とかの話の聞いたりして、もし自分が災害にあったときなどを想定して支援をしてきたので、学生目線ではありますが、そういうような意見を言えたらと思います。

○佐々木委員

札幌市の避難場所基本計画、5 年前に策定した際の委員を務めておりました。その関係で今回も皆様とご一緒させていただくことになりました。

5 年前に策定された後に、札幌市に大雨で特別警報が出たことがございまして、その時に小中学校の先生方が本当に避難場所を設営するのに大変な思いをされたことをつくづく実感したものですから、今回はある意味、学校の方とも連携しながら、いい計画ができればいいなと考えております。

○篠原委員

私は、普段は地域福祉の推進を行う非営利型の一般社団法人を経営しておりまして、普段、社会福祉協議会、地域包括支援センター、あるいは福祉行政の皆さん方の、福祉の支援をされている方の、さらに支援をする仕事をさせて頂いておりますが、大規模災害が発生した時には、中央共同募金会、赤い羽根共同募金の上部組織がありますけれども、そちらの方で設置をされております災害ボランティア活動支援プロジェクト会議というところからの派遣要請に基づきまして、災害被災地の被害者支援の仕組み構築をさせていただいております。

今回の西日本の豪雨に関しましても、岡山、倉敷市と北海道を行ったり来たりしながら、避難所の支援をされている NPO、NGO さんの活動と、行政の皆さんの調整も現地ではさせていただいております。これまでも様々な被災地の活動支援に赴いておりますので、何かの役に立てればなあとお思いまして参画をさせていただいております。

○竹腰委員

札幌市教育委員会 保健給食課の竹腰と申します。東日本大震災の際に、岩手県の大槌町の方に、1 週間ほど行ってまいりました。食事提供の面で微力ですがお役に立てればと思います。

○玉井委員

私は 2000 年の有珠山の噴火の際に、現地で動物救護活動を立ち上げ従事していた、その中心メンバーの一人でございます。

その他の災害と私の関連から少しお話すると、阪神・淡路大震災発生当時、テレビのアナウンサーの仕事をしていたので、それを伝えていた立場で阪神・淡路を経験しております。東日

本大震災発生当時は、全国国立大学付属学校 PTA 連合会の会長も仰せつかっており、宮城教育大学や福島大学の付属学校との情報収集・支援などに当たっていたので、ペット以外のことも色々そういう視点があるだろうということを出てきております。

避難所のペットの問題というと、そこにいらっしゃる方々の犬や猫のアレルギーの問題に多く視点が当てられるのですが、実はそれだけではなくて、公衆衛生上非常に重要で、犬や猫が同行避難できずに逃げてしまうと、今の日本で狂犬病は発生していませんが、この北海道、札幌もあつという間に犬はエキノコックスに感染して、それがまた人の方に色々問題を起こしてしまうとか、この季節だとダニ媒介性脳炎が今非常に問題となっているのですが、離れてしまった犬や猫が人にそういう病気を持ち込む可能性があり、これ以外にも沢山あります。

なので、アレルギーだけに視点が行くのではなく、公衆衛生上も同行避難、犬や猫を逃がさないことが非常に問題だということを是非委員の皆さんにもご理解を得て、このペットの問題がより良い方向に向かえばという風に思っています。

#### ○筒井委員

熊本地震の時に札幌市から第一陣の派遣として行って、熊本市東区の小学校で避難所の運営をさせていただいたりとか、平成 26 年 9 月の大雨の時にも市内の中学校で避難所の開設に携わらせていただいたりとかの経験があります。そういった経験をしている札幌市職員として今回は皆様のように専門的な知識はありませんが、真剣に検討してまいりたいと考えております。

#### ○根本委員

恐らく皆様方と全く違うのは、札幌域外、北見市の方から参っています。

私がこちらに呼ばれた理由は、恐らく一つ、寒さ対策だろうかと思えます。本学は北見市にございますので厳冬期の災害演習を過去 10 年間続けさせていただいておりますが、その中で私達がこれはやってはいけないという課題が見えてきました。それに対する方策もようやく去年あたりから見えて参りましたので、これにつきまして札幌市さんの少しでもお役に立てれば宜しいかなというのが、私が考えている中身でございます。

あともう一つ、道庁さんが一昨年でしょうか、北海道版の避難所運営ゲーム HUG の作成委員であるとか、もしくは先週末も倉敷市真備町さんを訪問させていただき、そこで私達が担当させていただいているのは、段ボールベッドになります。これにつきましては北海道内では私は必須の資材であると考えておりまして、その活用方法について皆様方と議論出来ればありがたいと存じます。

避難所に関しましては場所だけを提供すれば良いというものではないと考えております。やはり命を守る場所、命を繋ぐ場所、そのために避難場所基本計画に関しましても「人づくり・ひとつなぎ」ということが、大きな課題になろうかと思えます。その意味で北見市からの人間ではございますけれども皆様方とともに札幌市のために少しでも力を発揮できればと思えます。

#### ○平田委員

私は札幌市立中学校長会の施設部を担当しておりまして、その中で研究しております中身で避難所開設に係わる部分を担当しておりますので、今回ここに参加しているのかと思っております。

平成 26 年 9 月 11 日にありました札幌の大雨の時には、南区の学校で避難所開設をする体験もいたしております。その中で色々感じたこともありますし、危機管理対策室とも毎年色々取材をさせていただく中で、札幌市として色々取り組んでいること、変わってきていることを自分の中で感じ取っています。その中で今回の見直しということで、学校の立場で色々お話しできればと思っております。

#### ○宮本委員

私は保健師で東日本大震災の時に仙台市へ派遣されました。保健師の派遣につきましては、

地震発生の翌日、3月12日に厚生労働省の方から避難住民の健康相談及び避難所の衛生対策等の健康支援活動のために保健師の派遣要請がありまして、地震発生から5日後の3月16日から3月22日まで札幌市からの第一班としまして医師職1名、保健師2名、衛生職1名の計4名のチームで被災地支援に携わってまいりました。

今回の計画の見直しにつきましては、その際の経験等も踏まえて参加させていただきたいと思っております。

○安田委員

私は主に地域の防災活動に関する研修、避難所運営マニュアルづくりのお手伝いをさせていただいています。避難所運営ゲーム、札幌市では「HUG」、道では「Doはぐ」という形で住民の皆さんが「避難所を実際に運営するとしたら？」という形で行うシミュレーションゲームみたいなものの講師をさせていただいています。

最近、札幌市内・札幌市外の自治体でも実際に避難所を開設するとなったら、先生方だけではとても間に合わない、大変だろうということで町内会の防災活動の盛んな所では自分たちでも協力したいということで、避難所運営マニュアル等を作ろうという所が少しずつ出てきています。そのお手伝いもさせていただいています。

私自身の経験としましては、東日本大震災、熊本の震災については、阪神・淡路もそうですけれども、復旧の目途がほぼついたくらいの時に調査に行きます。東日本大震災の時は、宮城県の事業所や自治体の聞き取り調査に行っております。

私の今までの経験と実際に住民の方に接していて色々出てきている意見を踏まえて、今回の計画の見直しに少しでもお役に立てればと思っております。

○渡辺委員

私は市民防災団体ということで、単位町内会とか連合町内会の方々が沢山参加されております団体でございます。その中でいつも問題に提案されるのは、北国としての対応をどうしたら良いのか。南国の方と違いまして、雪国としての対策はよその所とはやはり違うので、寒さ対策だとか。避難所でのペットの問題についても、この頃研修会などで出されていますので、今日はその点についても色々話を聞いていきたいと思っております。

特に高齢者が沢山おりますので、高齢者としての対応の仕方、日頃のコミュニケーションをどのようにしたら災害が起きた時に皆さんに声かけを出来るか、ということ等について身近な問題で市民団体として話し合いをしておりますので、今回の会が有意義な話し合いが出来る場として期待して参加しております。

○事務局

初めての委員会開催となりますので委員長を選出していただくこととなります。要綱第3条第2項によりまして「委員長は、委員の互選により定める。」となっております。皆様、初めてお集まりいただいたものですので、まずは事務局から推薦させていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○委員

異議なし

○事務局

異議がないということでございますので、委員長につきましては、防災教育を専攻し北海道防災教育アドバイザー等を歴任され防災に関して造詣が深い、北海道教育大学札幌校 佐々木貴子委員を推薦させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

(拍手)

○事務局

ありがとうございます。異論がないということでご承知とさせていただきます。

それでは、これ以降の議事については佐々木委員長の方をお願いいたします。

○佐々木委員長

皆様改めまして委員長を務めさせていただきます佐々木でございます。今日皆様のご挨拶を聞きまして、素晴らしい方々が委員になられているのだと実感しております。どうぞ色々な意見を出していただいて、より良いものを作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3 避難場所基本計画の概要について

○事務局

(資料1 説明)

○篠原委員

今後、どこまでこの委員会の中で触れておくべきことなのかということをおそらく確認しておきたいと思っております。それは資料の最初のページの下のところには環境整備、それから配置方法、備えるべき機能目標を設定し、その整備方針を定めるとなっていますが、ここの部分だけの協議なのか、それとも整備したものをどのように配布をするのか、避難所の中の自治形成などそういったところまで踏み込むべきものなのかをまずは確認をしておきたいと思っております。

基幹避難所の役割としては、備蓄しているものや物資が届いたものを在宅避難されている方々に対して、供給する役割も備え付けられているはずですが。そういったところも含めて今回の議論に入ってくるのかどうかを確認させていただきたいと思っております。

○事務局

環境整備や応急救援物資の配置方針等は避難場所基本計画の中で定めていますので、この中での見直しを考えております。避難場所での具体的な取組等は避難場所の運営マニュアルというのを札幌市でも作成しておりますので、この計画に基づいた形で取組等を載せていくということになると考えております。

○佐々木委員長

生活環境の確保のところ、発災直後のトイレ対策として凝固剤等を使用して対応するということがあったが、これをした後に確実にごみが出てきますよね。そういうごみに関しても運営マニュアルの方に持っていくのでしょうか。それともこれに関するものを載せるという考え方なのでしょうか。

○事務局

ごみの処理というのは避難所だけではなく、他のごみの処理の問題もあると思っております。そういったところは地域防災計画の中でごみの処理対策を定めているのですが、もしその中でごみ処理に対して備蓄でできることとか、協定で何かやるのか、そこを計画の中に入れるのか、その辺も含め検討をさせていただきたいと思っております。

○玉井委員

この概要の中には今のところペットのペの字も出てきていないのですが、後に出てきます見直し、改善点の中にペットの同行避難の問題をどう盛り込んでいくかという話し合いを経て、どこかにそういうことも書かれていくという認識でよろしかったでしょうか。

○事務局

現行ではペット対策というのがございませんので、そこも盛り込んでいきたいということでございます。

#### ○事務局

念のため補足をさせていただきますが、今ご説明をさせていただいたのは、25年3月に策定をしております現在の避難場所基本計画のご説明でございます、今回こういう形の計画にしたいという原案ではございません。

5年前に作った計画の内容がこういう内容で、その後各地域で色々被害が出て、避難場所での課題が新たに出てきますので、4番の方で新たに出てきた課題についてご説明をさせていただきます。そういったものを踏まえて、新たに盛り込むべき項目はどういったものがあるのか皆さんにご議論いただいて、新たな見直し後の計画が出来上がるということでございますので、今のは現在の計画ということでございます。

### 4 熊本地震等における課題について

#### ○事務局

(資料2 説明)

#### ○根本委員

内閣府が出されている事例と報告書、非常に内容が濃いので、国としてこの地震を初めてここまで検証したという初めての事案ではないかと思えます。この中で素晴らしい課題をピックアップしていただいたことをありがたく思うと同時に命の部分では是非情報共有しておきたい部分が2点ございます。

一つは直接死と震災関連死の部分です。熊本地震では直接死が50名、震災関連死が210名超ということになっています。すなわち、直接死よりも震災関連死が4倍になっていることも踏まえ、さらに、震災関連死の4割が肺炎による死亡という報告が熊本県の方からされています。このようなことが直下型の地震の場合には起こりうるということを想定したいということがあると思えます。

もう一つは最後にあったエコノミークラス症候群です。今回では救急発症事例は52名、そのうち40名は女性です。その40名のうち7割強が65歳以上ということで、65歳以上の女性の方のエコノミークラス症候群の超急性期からの介入が重要だということを踏まえて、熊本地震の課題を読み解いて命を守る取組を進められると良いのかなと思えます。

#### ○篠原委員

エコノミークラス症候群などの二次被害防止、災害関連死ゼロを目指してということだと、避難所で運動・口腔・栄養に関する指導がなかなか行き渡らないことがありまして、先般の西日本の豪雨災害で、避難所に入れ歯を外している方がいらっしゃったが、すでに入れ歯にカビが生えているような状況も見受けられる状況でもあった。口腔や栄養などと連携した避難所の対策というのが求められてくると思えます。

札幌市で想定しているのが冬場の災害ではありますが、今もなお2,400名以上が避難をされている倉敷市では毎日カレーライスで「今日はシーフードカレーで良かったね」というような状況で、お昼は蕎麦、そうめん、冷や麦というような本当に決まった食事しか与えられてないというような状況が続いている。やはり避難所の中で自分たちが煮炊きできるような環境をいち早く整備をすることも熊本地震以降の課題として挙がっていると思っております。

また、SDGsの取組みが平常時から盛んに行われていますが、なかなかLGBTQの方への配慮が避難所の中でされていないという実態があります。外国籍の方々だけではなく、LGBTQの方々への配慮も平常時と同じようにしていくということが避難所で求められるということです。

全国的にも避難所の支援を行っているNPO、NGOの方々、すでにスフィア計画を含めた避難所の運営を行うということを軸としていますので、そういった知識・経験等を札幌市として蓄

積していくことも求められるとっております。

○玉井委員

ここには具体的には書かれていないのですが、私が聞いている範囲では、熊本地震の時も盲導犬は法律では補助犬として、しっかりと守られているはずですが、ペットとしてひとくくりとして扱われているということがあります。もちろんペットも盲導犬も同じ犬ですが、アレルギーのことを過敏に評価するばかりに、一般の避難所に安心して避難できなかったという話を聞いています。この辺をしっかりと考えていくのも札幌の課題かと思っております。

○篠原委員

岡山県倉敷市では今回、ペット同伴の避難所を設けております。先週の火曜日現在(2018/7/24)で22組の方がペットを連れて避難している情報がありました。ただ、十分に市民の方に周知されていない、避難所運営をしている担当者の方々にペットの避難所があるという情報がしっかりと伝わっていないという状況もあり、22組にとどまっていると報告されておりました。

○安田委員

男女別・子供への配慮とのことですが、女性に配慮した避難所運営研修プログラム、研修テキストを作った経験があります。作ったきっかけは、東日本大震災で女性や小さな子供への配慮が少ないことがあり、ストレスで体調が悪化し病気になっていく。母親がそういう状況になると、子供を育てるのが大変になる。また、避難所での犯罪に巻き込まれやすいということ等があり、そういったテキストや研修プログラムを作りました。

今回の熊本地震でも東日本大震災のときに指摘されていたことが、同じように出ていた。あまり改善されていないということは、自治体で避難場所運営計画を作っても、実際の運営の段階では見落とされてしまう。なぜかという、命が助かったのだから、そこで色々なことを我慢しなければならぬ状況がまだ続いているのだという感じを受けました。今までの基本計画でも、さらっと取り上げられている感じなので、もう少しそういったことを含めて見直していくと良いのではないかと思います。

それが結局 LGBT とか障害のある方が避難所でどう暮らすのかということにもつながると、思いました。

○植田委員

子供の命を守るということでは、熊本地震の課題にもあります、子供が安心できるスペースや遊び場の確保は本当に重要だと考えております。熊本地震で実際に被災された園の園長のお話を聞く機会があったのですが、助かった子供たちは通常には過ごしているけど、やはり心のケアがすごく必要。例えば絵を描いていても、絵が真っ黒だったり、何かしらのサインは出しているが、なかなか心のケアまでは追い付いていないというのが課題だと聞きましたので、是非札幌においても助かったからこそ、その先も考えていただけたらと思っております。

○筒井委員

食料管理という所では、私が熊本の避難所の運営に行ったときに、地域の方が野菜などを持ち込んでくれ食材がありましたので、札幌から行ったメンバーでポトフやサツマイモの天ぷらなどを作って提供していましたが、帰ってきてから塩分が多すぎると高血圧の方などにとっては良くないという情報を聞き、行った当初は向こうの方がすごく喜んでくれたので良かったと思いましたが、よく考えるとそういった配慮が足りなかったと反省をしたところです。

食事の部分についても、みんなが食べられるものを作るだけではなく、そういったことも考えなければならないと思ったので、そういったことも含めて検討していければと思います。

○川村委員

私も熊本に行って、避難所で生活をしていた方のお話を聞いた時に、セブンイレブンさんがお弁当などを持ってきてくれましたが、そのお弁当を食べずに自分の生活エリアに溜め、その



食料が腐って、においとか他の人にも影響があったというお話も聞いたので、食料の管理という部分で食事の提供後にも例えば賞味期限などの声掛けなども必要ではないかと思いました。

#### ○篠原委員

今の岡山の状況ですが、岡山の近所の人たちが畑で採れた作物を避難所に持ってきて置いていくのですが、避難所を管理している方や保健所の指導では、生野菜は食べるなという指導になってしまう。それは食中毒防止のためだが、調理をされたものと、生野菜ではどちらの方が食中毒になる確率が高いかというところ、調理したものの方が断然高かったりする。

衛生上の管理面で提供されたものはそのまま食べることができないので、調理道具を備蓄しておくことによって、避難所の運営管理がさらに良くなっていくことにも繋がっていくと思いますので、そういった視点での備蓄も非常に大事かと思っております。

#### ○大竹委員

外国人の方の支援について色々な問題があると思いますが、特に避難所基本計画に関連する部分については、ムスリムの方等の食事への対応が入ってくると思います。一般に備蓄されているわかめご飯などは十分に食べられるものですが、それが食べられるか、食べられないかが彼らにははっきり分からない。例えば調味料に豚由来のものが入っていればそれは食べてはいけません。ただ、それが入っているのかどうか分からないので、食べられるという表示がされていけば安心して食べられると思います。

避難所生活のルールについては、災害が起きる以前から訓練や情報によって知っていただくということも大切ですが、避難所登録・受付の時点で、外国人や違う文化を通してこられたということが分かれば、それに適した対応をしていけるので、生活の仕方マニュアルのような避難所での過ごし方について、文化の違う方でもわかるような内容のものが配られれば、他の日本人の方との衝突や対立も防げるかと思っております。

今、札幌市の避難所には、避難所における多言語シートというものを設置しています。トイレはここですとか、これは飲みますとかそういうことを日、英、中、韓の4か国語で表示した防水加工のされたシートを設置していますが、避難所でこれが存在していることを知っている方も少ないのではないかと思っております。マニュアルや基本計画の中にそういったものがあることを盛り込んでいただければ、実際に何かあったときの対応がスムーズにいくと思います。

#### ○根本委員

先ほど食料管理で高塩分のことが出てきましたが、カップラーメンが配られる事案が非常に多い。下水道など処分できる場所が近くにあれば、カップラーメンの汁だけを残すことができますが、特に急性期の場合には全部飲み干す必要がある。カップラーメンを全部飲み干すと最低でも6g塩分を取ってしまいますので、1日で考えるととんでもない塩分量になってしまう。備蓄計画の中の塩分量の把握は非常に重要な部分になるかと思っております。

それに関係すると、出来れば炊き出しをしたいのですが衛生環境を整えることが重要です。北海道の場合は、様々な場所にキッチンカーがあるので、あれを上手く使えばあれで衛生管理ができる。平時にあるものを有事に上手く使えるような仕組みづくりというのを盛り込んで良いのかなと私見として考えています。

要配慮者で私が絶対に外せないのは妊婦さんになります。熊本地震では妊婦さんが5日間車中泊をされて、その後早産で0歳児の方が震災関連死として認定されています。こういったことが起こらないように、超急性期の段階から妊婦さんだけはしっかりと把握し一番良い場所にしていただき、また要配慮者の方がしっかりと声をあげられるような仕組みづくりが必要ではないかと考えております。

ペットの対応でも、特に小動物でハムスターやモルモットなどがいるので車中泊になると言う方が沢山いらっしゃるかと聞いております。車中泊対策と一緒にするので、ペット対策につ

いては是非積極的に管理していただくと良いと思います。

最後にキーワードとして、熊本地震では「車中泊」がピックアップされましたが、もう一つ「軒先避難」と言う言葉が出てきました。自宅の避難だが、自宅には入れないので、カーポートで生活するということがある。これは避難場所の基本計画とは若干くるってくると思いますが、用語としては載せても良いかと思います。

○佐々木委員長

これは避難場所の基本計画ですが、皆様のお話を聞いていると、避難所の運営マニュアルと一体化させていく必要がある。ただ、モノだけ揃えたから良いのではなく、どう運営していくのかを積極的に関わる必要があると思います。

## 5 計画の見直し項目について

○事務局

(資料3 説明)

○篠原委員

先ほど委員の皆様方からいただいたお話というのは、各種のマニュアルとの連動性が非常に強いものもあるのではないかなと思っております。

この計画の中で取り扱うべきものと、各種マニュアルの中に反映させていくものの区別が私にはまだ分かりません。

次回までも構いませんので、地域防災計画に基づく各種の計画の避難所や被災者支援に関する支援がどのように構築されているのかというのを分かりやすく書面でいただき、今回の委員会では、ここの部分であることを提示していただかなければ議論の幅も広がりすぎてしまうのかなと思いますので、是非ご用意いただきたいと思います。

○事務局

今日の基本計画でどこまで関わるのかについては、もう一度準備して次回お示ししたいと思います。

## 6 スケジュールについて

○事務局

(資料4 説明)

○佐々木委員長

非常にタイトな日程となっております。

本日、ご了承いただきましたスケジュールのとおり、今後検討を重ねまして今年度中に計画の見直しを行っていくということでございますので、どうぞ皆様ご協力の程よろしく願い申し上げます。

○事務局

本日は、貴重なご意見をありがとうございます。議論の結果を踏まえて、また作業を進めてまいります。

尚、現在、他の政令市についての取組状況を調べているところでございます。その結果についても次回示せるかと思っております。

次回の委員会ですけれども、先ほどの説明にあったとおり9月中を予定しておりますので、後ほどまた改めてご案内・ご連絡をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木委員長

それでは以上をもちまして、第1回札幌市避難場所基本計画見直し検討委員会を終了いたします。皆様、本日はありがとうございました。

以上